

今月のメッセージ（2012年2月）

日本銀行富山事務所長

佐子 裕厚

今年はどんな年になるのでしょうか。

富山の経済界の方々と新年のご挨拶をする機会を多くいただきましたが、多くの方々が、「為替円高、欧州ソブリン問題、タイの洪水の影響などにより、当面、厳しい状況が続く」との見方をされていました。

先月16日～17日に本店で開催された支店長会議を傍聴してきました。日本銀行も、「わが国の経済は、海外経済の減速や円高の影響などから、持ち直しの動きが一服している」との現状判断をしています。

ただ、設備投資や個人消費といった内需の底堅さや、震災からの復興需要、新興国経済の持ち直し期待など、明るい材料も指摘しています。悲観的になりすぎずに経済の動きをみていきたいと思います。

県からの依頼を受けて、「とやま経済月報」1月号に、「短観でみる北陸・富山県経済の現状」と題した文章を投稿させていただきました。また、今月8日には、富山県の経済の動きをまとめた「富山県金融経済クォーター」（2012年冬）を公表します。ご興味がある方は、ご覧いただきたいと思います。

先日、糸魚川から大糸線に乗って信濃大町まで行ってきました。「黒部の太陽」を片手に持った旅でした。大糸線の全線開通は昭和32年とのことですが、糸魚川から南小谷までは急峻な谷沿いの線路で、いまだ電化もされておらず、自然の厳しさを強く感じました。

黒四ダム建設工事の苦勞については、私が申し上げるまでもなく、皆さんの方が詳しいのだと思いますが、壮絶な犠牲を払いながらも、自然に立ち向かい、関電トンネルを貫通させ、ついにはダム工事を完成させたのは、「何としてもダムを完成させるのだ」という熱い思いが関係者の方々にあったからだと思います。

信濃大町の駅から関電トンネル方面に向かうタクシーに乗りながら、こうした熱い思いのほんの一端でも良いから受け継ぎたいものだと思い、今年1年を過ごしていくうえでの新たな闘志のようなものを感じました。